
THE WORLD

★田舎者☆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

THE WORLD

【Nコード】

N1003B

【作者名】

★田舎者☆

【あらすじ】

少年は死を願望している。この荒んだ世界からの開放をのぞんでいる。近くで聞こえた銃声に、殺しあいがおこっていることをさとした少年は、音をたよりに、路地をすすんでいく。

(前書き)

フィクションです。

「ダンッ。」

銃声が聞こえる。

「ダダンッ。」

また聞こえる。

ここまでそう遠くないな。僕は頭の、どこか遠くの方で、そんな事を思いながら、ふらふらと高いマンションの間の狭い路地を歩いていく。

時は2315年。

5年前に終結した

「第三次世界大戦。」

あれから世界はおかしな方向を向いてしまっているらしい。

僕が通う私立中学で習ったんだけど、サバンナとかいうジャングルは、潤いを、木々を、全てを人々にとられて、砂漠になってしまったらしい。

まあ、とにかく世界は荒んでるのさ。

僕？

僕は今年の十月で十四歳の、私立なんかに通ってるお坊ちゃま。夏

川 信二。

そして、これから僕は死に行く。

先程、銃声のした辺りへ行くと、男が二人、一人は頭を、一人は胸を撃たれて死んでいた。

別になんとも思わないよ。こんなの、もう当たり前だから。

大人達は、欲に負けた。

その結果がコレ。僕はそんな大人たちを、星の数程見て来た。そんな大人になりたくないから、僕は、今日こそ死にたいのさ。

生まれ変わったら、星になりたいなあ、なんて思いながら、僕はそこにたたずんでいた。

カラスが鳴きだして、僕は正氣に戻った。

気が付くと、目の前には僕に向かって銃口を向ける男がいた。

僕は両手を広げて、受け入れる準備をした。

「死んだらよ、」

突然の男の声に、僕はそこに直って男を見た。「死んだらよ、何にも残んねえぞ？ あんた、それでもいいのかい？」

ぼそぼそと掠れた声で、話し出した。

「こいつらだって、生きたかったんだよ。きっと。生まれ変わったらなんていうけどな、生まれ変わるのには時間がかかるのさ。そんなのもったいないだろ」

銃口は突き付けられたまま。でも、僕は一步前に踏み込んで少し大きな声で、

「どうして知ってるの？」

って聞いた。

誰にも話した事ないのに。

「わかるさ。そういうもんだ」

含み笑いされた。

それでも僕は

「早く撃って下さい。あなたには関係ないんだから」
とまた両手を広げた。

現実なんて、どうせ腐ってるだろ？腐った世の中で腐って生きて、
腐って死ぬのなら。

若さを、心を忘れないうちに。

ズダァァン。

銃声が頭に響いて、遠くなっていた。

気が付いたら、僕は自宅のベッドで寝ていた。

「また死ねなかったのか」

部屋の天井をぼんやりと眺めて、僕はそんな事を言っていた。

ズダァァン。

撃たれた。はずだけど。

僕はよけていた。銃弾を。すかさず懐の護身銃で男を撃った。
倒れる男。

何度も、何度も。

僕は男を撃ち続けた。

ああ。僕はもうとっくの間に頭がおかしくなっていたのか。
ひよっとしたら、大人だけじゃなくてさ、僕ら人間自体、みんなお

かしいのかもね。自嘲気味に笑って目を閉じて、僕は自分の頭を撃った。

ベットから出て、窓を開けた。また朝が来たのか。どうせなんにもないくせに。

遠くに見える町並みをみて僕は呟いた。

「ああ、世界は荒んでる」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1003b/>

THE WORLD

2010年10月11日00時26分発行